新型コロナウイルスワクチン接種についての情報提供

人類に対して初めて使用される遺伝子ワクチンは、まだ治験の途中で緊急使用されているため、効果や安全性の情報が不足しています。接種は強制ではありません。本人が希望する場合のみ接種が行われます。薬品の投与には必ずリスクが伴います。効果とリスクの双方を理解した上で、自らの意思で判断する必要があります。当院では患者様の健康を考え、最新の情報をご提供させて頂きます。判断材料としてご利用頂けると幸いです。

＜効果＞

・重症化予防を期待（治験中のため効果は不明）

※あくまで重症化予防であり感染の予防効果は期待できない（厚労省発表）

※２回以上接種者の方が非接種者より感染率が高い（厚労省発表）

※４回目の接種が進んでいるイスラエルでは感染者の急増が止まらず、重症化する人も増え、死者も急増している。日本も同様。

※政府は接種証明書を発行しているが、国内での運用は感染抑止効果が確認出来ないため中止。予防接種法では非接種者への差別は許されないとの付帯決議が成されている。

＜リスク＞

◎日本における副作用の疑い事例（R.3.2/17～R.4.7/8 厚労省発表）

・死亡報告　１７７１件　→　１７９６件に増加！！（R.4 .8/5）

※平成３０年のインフルエンザワクチン接種後の死亡報告数３件

・重篤な副反応　２３４３６件！！（R.4 .8/5）

心筋炎、脳血管障害、失明、ギランバレー症候群など

・妊娠中に接種後の死亡６人、重篤１０５人

・２回以上の接種後９０％以上に発熱、頭痛、強い倦怠感、関節痛など（これらの症状は報告義務がないため副作用件数に含まれていない）

◎アメリカの状況（2022.8.12 時点　CDC 等発表）　副作用報告数 1385398 人

・死亡　30347 人　・入院　173449 人　・緊急ケア　133938 人　・心筋炎　51566 人

＜考察＞

政府は９月より 5～11 歳の接種に対し努力義務を課す方針を固めている。10 代以下で接種後に死亡を疑われる事例が 9 件発生しており、重篤化した事例は 516 件におよんでいると厚労省が認めている。病気でもなかった子供が接種後に 500 人以上重篤な症状で苦しんでいるのに「安全」だとし努力義務を課す。正気の沙汰とは思えない。そもそも感染しても重症化率ほぼゼロの子供に重症化予防の薬など必要ない。接種しても感染するなら、接種しても他人に感染させる。他人のために接種するという発想自体がお門違い。むしろ超弱毒化したオミクロンには、健康な子供に限り積極的に感染し免疫を付ける方が得策だと言う専門家も多い。過保護は逆効果。大人の判断で子供を守らなければならない。